

2014年1－3月期四半期別GDP速報（1次QE）
公表に際しての甘利経済財政政策担当大臣談話

2014年5月15日（木）

1. 本日公表した2014年1－3月期GDP速報（1次QE）では、実質成長率は前期比年率5.9%と、6四半期連続のプラスとなった。

その要因としては、消費税率引上げに伴う駆け込み需要もあって、個人消費が大きく増加したこと、企業の収益やマインドの改善等を背景に、設備投資が増加したこと、などが挙げられる。

また、GDPデフレーターは、前年同期比で2009年7－9月期以来18四半期ぶりにマイナスではなくなり、デフレ脱却に向けて着実に前進している。

2. 4月に消費税率が8%に引き上げられた。駆け込み需要の反動により、消費に弱い動きも見られるが、こうした動きは想定されていたことで、一時的なものと考えており、雇用・所得環境が改善するなかで、消費は次第に持ち直していくと期待している。

先行きについては、近年にない賃上げの動きが力強く広がっているなど、経済の好循環の実現に向け前進を続けているなか、各種施策の推進等により、年度を通してみれば、前年度に続き堅調な内需に支えられた景気回復が見込まれる。

3. 政府としては、引き続き、消費税率引上げ後の景気動向を注視するとともに、平成25年度補正予算及び平成26年度予算の早期執行に努める。また、年央に骨太方針を取りまとめ、さらに成長戦略を改訂するなど、持続的な成長に向けた取組を強化する。

こうした取組により、景気の下振れリスクに適切に対応するとともに、デフレ脱却と経済再生に向けた道筋を確かなものとしてまいりたい。

（以上）